伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和元年度第1回）審議結果等

* 日時：令和元年11月14日（木）10時から
* 場所：伊勢市役所東庁舎4階4-2会議室
* 出欠：
  + 委員：別紙のとおり
  + 事務局

環境生活部長（藤本）、清掃課長（事務局2）、ごみゼロ推進係長（井村）、ごみゼロ推進係主事（東條）、ごみゼロ推進係（森井）

* 審議結果等

事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。なお、単なる資料解釈に対する説明は省略している。

|  |  |
| --- | --- |
| ●報告事項  （○平成30年度ごみ排出量実績について） | |
| （委員1） | 概ね少しずつだが、良い方向に向かっている。 |
| （委員2） | 資料1-2の「見通し」があるが、見通しはだいぶ前からなので、見栄えがよくない。前年度比率1.4％下がっているのに、どこかの段階で見直してもよいのでは。 |
| （事務局1） | 平成29年度に計画を作り直した時に、人口に関しては人口ビジョンをもとに作っている。現状が毎月上がってくる数字とかけ離れており、10年スパンで作っているが、5年の見直しの際に人口も含めて数字を作り直したい。 |
| （委員1） | 人口が減るにも関わらず、それに見合った減少がないというのは世帯が増えるということか。全国どこも同じ傾向。思ったほどごみが減らない。 |
| （委員3） | 町が資源回収で段ボール等を集めているが、それはカウントされているのか？雑がみは資源で増やせ、ごみは減らせ、でどれがいいのかわかりにくい。 |
| （事務局2） | 資料1-2を見ていただくと、（4）が燃えるごみで、そこから下が資源物なのでその部分を増やしていきたい。表の作り方は国の方針に基づくため、分りにくい部分があり申し訳ないが、全体で見てほしい。燃えるごみを減らしたいが、例えばペットボトルなどの容器の重さが軽くなり資源化率が減ることもある。一番は家庭から出る燃えるごみを減らすことが大事である。 |
| （委員4） | 処理する立場で申し上げると、燃えるごみは必ず減らしていただく。3Rの順番は、昔はリサイクルがトップにきていたが、今はリデュース、発生抑制が一番である。当然リサイクルできるものも再資源化するのにお金がかかる。今、リデュースがトップにきているということは、燃やすごみも当然減らしていただきたいし、リサイクルするいわゆる資源ごみも減らしてもらいたい。発生抑制で余分な包装はもらわないなどだが、全体的には減らしていただいたほうが良い。資源ごみも減らしていただくのが今の社会では大前提。 |
| （委員5） | スーパーでは過剰包装が多く、夕食するだけでごみが出る。私たちではできないので事業所で取り組んでもらいたい。人口が減っても世帯数は増える。台風があると買い占めするなど、生活習慣を見直すのも大事。 |
| （委員6） | 資源化の中で最近、衣料をやめている業者がいるが何か理由があるのか？間口が狭くなったので、市の考えは。 |
| （事務局2） | あくまで民間業者が自主回収しており、行政はお金を出していないが、考え方としては衣料もリサイクルしているので古紙業者が協力している。推測だがリサイクルの行き先がなくなったのではないのか？再度、広報等でも周知していきたい。 |
| （委員3） | 会議所で羽毛リサイクルをしているが、集めた費用は災害ボランティアに使うなど目的を決めている。ただ集めるだけでなく、目的を作ったら起爆剤として意識が高まるのでは？ |
| （委員1） | 漫然と資源といってもピンとこない。具体的に目標を定めたら、市民も感じるところはあるのではないか。 |
| （事務局2） | 本来の趣旨は資源ごみを集める行為（児童・生徒）の環境教育の取組みが発端で、それに対して補助を出しているという考え。再生資源回収の登録団体は170ほどあるが、初心にかえって環境教育が主旨であることを団体に周知していくことを考えている。 |
| （委員1） | 子どもさんたちも、これが何になるのか知ることが大事。 |
| （委員7） | 事業ごみが減った印象だが。また、資源化率について資料1-1は16.4％で資料1-2の資源化率と違うが、これは数字の根拠が違うと言う事で良いのか？ |
| （事務局1） | 事業ごみが減少した理由は、清掃工場で行う月2回の許可業者への、ごみ搬入検査の効果も含めて、適正に出す業者が増えたという効果もあったのではないか、と考えている。 |
| （委員7） | 産廃が混ざっていたのを取り除いて、受け入れなくなったのもあるのか？ |
| （事務局1） | 管外ごみがあったのもあると思われる。また、資源化率については、資料1-2の方は焼却灰を含めているため数字が大きいが、資料1-1の『事務の概要』の数字では、焼却灰を含めない資源化率の数字を載せている。 |
| （委員7） | 公表するのはどちら？1-1は伊勢市独自の出し方で、1-2が環境省の調査の出し方ということで理解した。 |
| （委員3） | 20～30年ほど前、青年会議所でドイツに行った際に過剰梱包禁止令のようなものがあった。提案だが「梱包Gメン」を作ればごみが減るのでは？ |
| （事務局1） | 費用対効果で考えると排出量で一番多いのは燃えるごみなので、過剰包装によることや組成調査でやるプラスチックの割合はそれほどない。減量化の一翼を担うものとして過剰包装対策は面白いが、日本全体で流れを変えていかないといけない。 |
| （委員2） | エコバッグを始めたのは全国で伊勢市が一番早いと思うので、過剰包装に関しても伊勢市が先進的にやるのもありだと思う。  意識していても社会環境が変わると、自分たちの意識の範疇ではどうにもならないごみの増え方はある。三重県の方は環境意識が高い。 |
| （委員3） | あるスーパーはレジ袋をたくさんくれるので、マイバッグを持っていく習慣がなくなる。 |
| （事務局2） | 来年7月からレジ袋が有料化になるので抑制されていくと思う。食品ロスの関係でスーパー系の業者と協議して、投げかけはさせてもらいたい。明和のスーパーでは焼酎をマイボトルに入れるなどあるが、衛生上の問題のクリアが必要。 |
| （委員5） | 衛生上の問題はあるが、事業者が丁寧に取り組んでいきたい主旨を市民に伝えれば、協力してもらいやすい。 |
| （事務局2） | 今は通販社会だが、企業は企業さんなりに梱包が“プラ”から“紙”系になったりするなどの努力もしていただいている。 |
| ●報告事項  ○令和元年度ごみ排出量実績について | |
| （委員1） | 資料2について、燃えるごみがH29とH30に減っているにもかかわらず、H31でなぜ増えているのかは大きな問題。 |
| （委員2） | 消費税の増税が確定したのが影響か。消費税増税前には、買い替えなどで必ずごみが増えると考えたほうが良い。 |
| （事務局2） | 災害が起こると、ごみが増える傾向にある。 |
| （委員6） | 資料2の見方について、下段のカッコ書きの部分の説明を書かないと理解できないので、考え方をお聞きしたい。 |
| （事務局1） | 今後は資料作成時にはわかるように表現していく。 |
| （委員7） | 自分の畑の横に集積所があるが、以前に比べて増えているのは庭木や草。外に出して積み上げている。枝木はチップとして使えるが、最近草はかなり多い。 |
| （委員6） | 以前、下水道公社にいたが、枝木はウッドチッパーで処理すると半年くらいで土になる。肥料にできて土に還るので発生抑制になる。力をいれてほしい。 |
| （事務局2） | チップ化する民間業者へは許可を出しているが、容量的に小さい。先ほどの話でチップ化して公園緑地で使用できないか、など協議したい。 |
| （委員3） | 地元の公園がすごい草なので、各公園にコンポストを置くのはどうか？ |
| （委員5） | ごみ箱の横にあるといいが、使えるところ、使えないところがある。 |
| （委員1） | 業者が刈るのは年に一回くらい？婦人会さんがボランティアで草刈りをしていたが、地道で大事なこと。 |
| （委員3） | 最近は、建築関係の材木は業者が引き取ってくれない。収集してもらえないので、積んである状態。 |
| （事務局2） | 市では今、清掃工場で木は燃やしている。他市などでは、バイオマス発電施設へ持っていくところもある。 |
| （委員6） | 伊勢市がモデルとして自治会管理などで、安価でできるコンポスト設置は良い。 |
| ●審議事項  　○令和元年度取組み施策について | |
| （委員1） | 先日、県庁へ行ったがペットボトルは一切使わず湯のみを使っていた。ビニール袋も紙袋に転換されており、そういう取組みもさかんに行われていた。 |
| （委員2） | 食べきりキャンペーン（すぐ食べるならつれてって！キャンペーン）  はとても良い。レギュラー化する予定は？ |
| （事務局1） | 毎年10月30日は何かしらキャンペーンを打っていく。チラシ等もまだあるので、来年度もしくは今年スーパーで協力を得られれば、  やっていきたい。 |
| （委員2） | 一時期ではなく、ずっとやると効果があり発見できるので、レギュラー化したほうがよい。水切り器についても、意見集約して皇學館の学生さんと共同開発するのもよい。学生の発想力はすごいので、単発だともったいない。 |
| （委員1） | 事業5の環境教育とも関わるので、何らかの形で啓発していきたい。 |
| （委員5） | キャンペーンのチラシ「すぐ食べるならつれてって！」という言葉は非常にインパクトがあるので、市民がちゃんと知れるようにもう少しPRしてもらいたい。  水切り器（自立式）は良いが、台所に置くと邪魔以外にぬるぬるして雑菌を生む。 |
| （委員3） | 食品ロスについて、企業との進捗状況は？ |
| （事務局1） | 3010運動は今年の年末も啓発していく。昨年は外食の店舗で実施して以来進んでないが、市内では内宮方面で考えている。  今年はレジ袋検討会解消からの食品ロス検討会をスーパーさんメインで行っている。 |
| （委員3） | 食べきり協力店の店舗はしていないのか？ |
| （事務局1） | 昨年キャンペーンをしていただいた20店舗はそのままだが、そこからのプラスはない。 |
| （委員1） | 新聞記事では、コンビニでもおでんを売りたくないとあった。管理が大変でロスがかなり出るので業者も困っている。 |
| （委員6） | 資料3の未利用資源の資源化検証で、公園管理の部局と協議だが、行政だけで考えて判断せずに民間もやってるかやってないか、そういう広がりを持って進めてもらいたい。 |
| （委員5） | 雑がみに対する市民の考えが出てきた。最初に行政から提案された時に「どうやったらいいのか？」と思ったが、「これが雑がみなんだ」という認識がようやくわかった。雑がみとごみとの違いなど何回かPRしてもらうと意識が上がる。そういう方がもっと増えると良い。 |
| （委員3） | 町で資源を集めているが、雑がみの出し方がちゃんと分かれていないが、古紙業者さんではどう分けているのか？ |
| （事務局2） | 雑誌と雑がみのセットで処理をお願いしている。昨年から実施しているが、雑がみの中でふせんや小さな菓子箱など、本来なら雑がみの中に入れるべきだが燃えるごみに入っていたので、それを雑がみで出してくださいという周知を一年間させていただき、多少なりとも認知されたと思う。 |
| ●審議事項  　○令和2年度施策（予定）について | |
| （委員1） | 大学で環境教育を20年以上展開しているが、なかなか学生の意識も変わらない。外国人が多いところは分別に困っている。 |
| （委員5） | 10年くらい前は自治会も困っていて、ごみ問題がたくさんあった。言葉が通じないし意識が違う。最近の伊勢市は？ |
| （事務局2） | 入国された時に協会が2つあるので、説明会はさせていただいている。昨年はガイドブックの外国語版も送付した。 |
| （委員2） | 今、三重県の小学校は、児童数は少ないが、外国人の比率が全国で日本一。今はブラジル人と中国人、フィリピン人が増えている。 |
| （委員1） | 外国人への啓発が大事になる。日本のルールを学んでもらいたい。 |
| （委員5） | 外国人は、今はとても必要な人。いろんな人たちと共存しあっていく形に変わってきている。 |
| ○その他 | |
| （事務局2） | 伊勢広域環境組合のごみ処理施設の基本構想、建て替えについて。昭和50年に施設が建設されて、平成4年～7年に炉の更新をしたが、これから新しい施設を作る構想案を簡単に説明させていただく。基本計画を立てて施設を作るが、基本的には安全安心を確保しつつ、循環型社会の形成など8つの基本方針を立てて進める。  今後のスケジュールは令和8年度に新しくするという流れである。また審議会のみなさんで、一度施設の見学（四日市市）なども検討いただけたらと思う。 |
|  | |